

「ここに入居して、初めての 個展ができました」

佐倉(ゆうゆうの里)

奥山弘様(75歳)・多恵子様(75歳) 平成30年1月 夫婦入居



奥様の作品
「雨の日のざわめき」

私はいろんなことをやらせてもらいました(奥様)

奥様 現役時代、主人はあまりうちにはいませんでした。寂しかったけれど私も家でじっとしていられるタイプではなかったのでエレクトーンを習ったり、横浜に住んでいる頃は中華街で中華料理の教室に通ったり、日本語学校の講師をしていたこともありました。中華料理を覚えたことは、その後、日本語学校で知り合ったアジア、欧米の生徒達を家に招いた時大変役に立ちました。



施設のレストランに飾られた奥様の作品
「マルセイユ」

ご主人 先輩社員から「結婚してすぐは早く帰らないほうがいい」と入れ知恵されて、わざと遅く帰ったりもしています

た。(笑)

105日間の船旅を終えて、施設への入居を本気で検討

ご主人 2006年に母が亡くなり、2011年に母の飼っていた猫を見送ってから自由に旅行ができるようになりました。最も印象に残ったのはアフリカやマダガスカル、ペルーなど、14か国17の寄港地に立ち寄る船旅でした。船客は830人。家にいるより忙しいんですよ。家内はダンスや太極拳。私は朝夕甲板で集まる喫煙グループに加わりました。「産廃の専門家」「教授」をはじめいろいろな職業の人がいて話が弾みました。この旅が終わってから本格的にホームを探し始めました。

奥様 そうですね。子供もいませんのでしたし、もう少しコンパクトな家に住みたいという希望もありました。

ご主人 家が二世帯住宅で、二人で住むには広すぎて、年を取ってからはきちんと管理する自信もなかったしね。

はじめに「ゆうゆうの里」を見ておいて良かった

ご主人 たまたま新聞で「ゆうゆうの里」の広告を見て、初めて高齢者施設を見学しました。「ゆうゆうの里」は伊豆、浜松、湯河原、京都も訪問しました。最初に「ゆうゆうの里」を見ておいて助かったなと思います。「ゆうゆうの里」を基準として、ここは介護というより不動産屋みたいだな、とか、「大丈夫です」と言うけれど本当に大丈夫かな、とか。

奥様 伊豆高原の見学で一緒にだった方から「佐倉も必見よ」と伺って来てみました。体験入居ではずいぶん近隣を散策しました。緑も多く東京、成田へもアクセスが良いので気に入りました。

ご主人 入居後友人、知人が20人ほど訪ねてきました。高齢者施設と言ったら一つの建物の中で窮屈な生活をしているイメージを持っていたらしく、実際に見ると広い敷地の中で自由に暮らしていることに異口同音に驚いていました。自分はまだ、悪くない判断をしたんだと感じています。

大好きな油絵で初めての個展

奥様 絵を描き始めたのは50代に入ってからでしたね。絵画は筆使いや色を自由に表現できるところが気に入って続けています。ここ

に来て、ご入居者で毎年個展を開いていらっしゃる方がいると知り、さっそく個展を見に行つて、そこで会場オーナーさんに勧められ、個展を開くことになりました。個展では描き貯めた20点を出品しました。結構買つてくださる方がいました。自分の絵なんて、と思つていたのですが想定外の展開にびっくりしました。

ご主人 入居したばかりなのに佐倉「ゆうゆうの里」の皆さんに足を運んで頂きまして恐縮しています。

奥様 絵は続けていますし、コースにジム、畑、プール、書道も始めました。かなり毎日忙しく暮らしています。ゴルフも麻雀もしない無趣味な主人も卓球をしています。これからお互いのスタイルを尊重して歩んでいきたいです。

ご主人 結婚の時ご両親に一生面倒見ますって約束したので、老後も大事にしてあげたいと思っています。

